

## デルフィニウム (Pacific Giant系) の開花調節

第1報 夜温, 電照が生育と開花に及ぼす影響

郡司定雄・岩切吉勝・高橋英生 (宮崎県総合農業試験場)

Sadao GUNJI, Yoshikatsu IWAKIRI and Hideo TAKAHASHI : Control of Flowering of Delphinium.

## 1. Effects of Night Temperature, Daylength on Growth and Flowering

秋播きしたデルフィニウム (P.G系) は自然条件では初夏に開花する。この開花を早め、冬から春にかけて開花させるには加温と電照の効果が見られる。しかし、デルフィニウムは開花期が不揃いで、収穫始めから収穫終わりまでに、2~3か月かかることも珍しくなく、開花期の早進化と同時に開花ができるだけ一斉に揃うようにする技術が求められる。

このため、品種ごとの加温、電照に対する反応と、定植後の加温電照開始時期と抽だい開花との関係を検討した。

## 1. 試験方法

市販のブルーバード、キングアーサー、ガラード、アストラットを9月25日に播種、11月24日に定植し、定植時から、自然日長下で無加温区、10℃区、15℃区を設けた。また、10℃加温条件下で無電照区と電照区(日没からの電照による16時間日長)を設けた。さらに、9月1日に播種、11月12日にプランターに定植したブルーバードに対して、定植直後、1か月後、2か月後より加温電照を開始する区を設けた。

## 2. 結果

デルフィニウムの開花に対する夜間の影響は品種により異なった。ブルーバード、キングアーサーでは無加温で4月から開花が始まるが、10℃または15℃加温では開花は2月から始まり、明らかな早進化が見られた。ガラードは10℃加温では、開花が早まったが、15℃加温では開花の早進化は全く見られなかった。電照による日長延長の効果は品種により差はあるが2月、3月の開花が増加する形で見られた。

しかし、このような開花早進化の効果がみられる一方、開花期の幅は広がり、収穫期が長期間にわたる点に問題が残った。

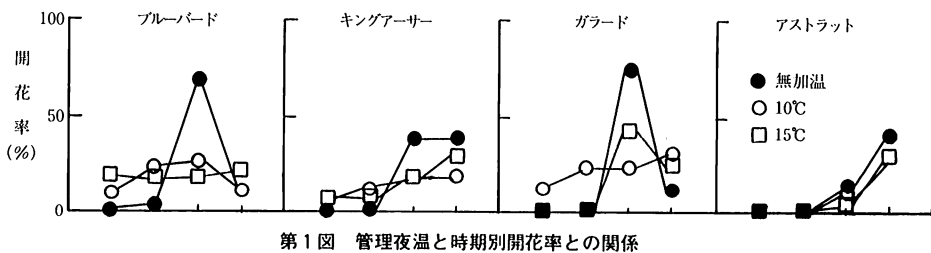
定植後の加温電照を開始する時期を検討した結果、加温電照を開始する時期が定植直後の区に対して、定植1か月後あるいは2か月後に開始する区は開花始めは加温電照開始時期に応じて遅れるが、開花時期を揃えるには明らかな効果がみられた。特に定植2か月後加温電照開始区は3月中旬から下旬の10日間でそのほとんどが開花した。

第1表 加温電照開始時期が時期別切り花収量及び開花率に及ぼす影響

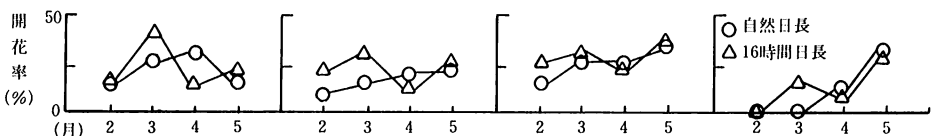
単位:(本), (%)

開始時期	1月	2月	3月	4月	合 計	開花率
	中 下	上 中 下	上 中 下	上		
定植直後	2 5	3	1		11	92
定 植 1か月後		6	2 2 1	1	12	100
定 植 2か月後			4 7	1	12	100

注) 1. 品種:ブルーバード  
2. 供試株数12株当たり  
3. 定植:11月12日  
4. 加温電照15℃, 16時間日長



第1図 管理夜温と時期別開花率との関係



第2図 長日条件の時期別開花に及ぼす影響